

1.現在の知多市・知多市民のすがた

ア、統計データなどの分析から見える知多市のすがた

- a. 今後人口が大きく減少する見通しにあり、老年人口の増加以上に生産年齢人口の減少が大きな影響を与えると予想される。
- b. 市外で働く人が多く、昼夜間人口比が低いことから、典型的なベッドタウンとなっている。
- c. 近年の住宅着工は少なく、人口は転出超過の社会減となっている。
- d. 事業所あたりの従業者数や人口あたりの事業所数が少ないため、雇用の受け皿が小さく、雇用創出力のある産業集積が進んでいない。
- e. 今後、2027年のリニア中央新幹線の開業や大規模なプロジェクトの開催などにより、名古屋都市圏の地域ポテンシャルが飛躍的に向上するため、このインパクトを最大限に生かすことが期待される。

イ、市民意識調査結果から見える知多市民のすがた

- a. 知多市が住宅地として発展し、長きにわたって暮らしている市民が多いため、古くからの友人・知人が住んでおり、こうした人たちとの時間を楽しむ市民が多い。
- b. 市民が知多市に抱くイメージとして、自然に恵まれてまちが落ち着いている、治安が良いと評価する一方で、買い物や外食の魅力に欠けているとともに、まちの活気がないと感じている。
- c. 知多市が一番暮らしやすいと考えている方は少数派で、知多市に対する愛着や誇りといった、シビックプライドが形成されていない、といったことが調査結果より推測される。

2.市民が期待する未来の知多市

ア、市民インタビュー

- ① 暮らしと自然が共生するまち
- ② 安全・安心に過ごせるまち
- ③ 人が集い、賑わうまち
- ④ 多文化共生が日常に溶け込むまち
- ⑤ 文化の薫るまち
- ⑥ 子どもからお年寄りまで、地域みんなで見守るまち
- ⑦ 持続可能な地域活動が盛んなまち
- ⑧ 市民が市の魅力を発信するまち

イ、市民ワークショップ

- ① 自然や歴史・伝統など、今の魅力を活かしたまち
- ② ちょっとした便利さがあるまち
- ③ 市民が集まり交流できる場が整備されているまち
- ④ 市民の“やりたい”があふれ、“やりたい”が叶うまち
- ⑤ 市民が盛り上げてつくるまち
- ⑥ 市の魅力が多くの市内外の人に発信され、共感してもらえるまち

ウ、総合計画プロジェクトチーム会議

- ① 身の丈に合った開発により、都市的な利便性と自然のバランスの良さが保たれているまち
- ② 緑や農地、海が感じられる雰囲気は変わることなく残り、ゆったりと落ち着いた暮らしができるまち
- ③ 子どもがのびのびと安全に暮らせるまち
- ④ 家族で一緒に過ごせる機会や場に恵まれているまち
- ⑤ 市民が世界とつながり、グローバルに行動しているまち
- ⑥ 市民の豊かな暮らしを後押しする取り組みを推進することで、夢が叶うまちとして市民の共感を集めるまち
- ⑦ 市民がいろいろな人たちとの絆を深めながら、市を魅力的にする活動に主体的に取り組むことを後押しするまち
- ⑧ 体力や希望に合わせたスポーツや健康づくりを楽しめるまち
- ⑨ 魅力が広く認識され、暮らしたいと考える市民が増えるまち

3.知多市の将来のまちづくりに必要なキーワード

朝倉駅周辺の魅力化

ほどよい利便性

変わらない雰囲気

ゆったり落ち着いた暮らし

安心して子育てできる

日常の多文化共生

世界とつながる

いろいろな夢が叶う

市の魅力を共感する

市民の絆が深まる

市民が市を盛り上げる

スポーツや健康づくり